

## 2020（令和2）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 令和2年8月24日（月）午後2時30分～
- 会場 釧路市役所防災庁舎5階 会議室
- 出席者 34人

### 〔市長より説明（別途資料参照）〕

- つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路
- ・釧路市の現状と課題
  - ・2020（令和2）年度予算
  - ・「釧路市まちづくり基本構想」重点戦略の推進（主な政策テーマ）
  - ・新型コロナウイルス感染症対策関係
  - ・日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの津波について
  - ・釧路都心部まちづくり計画

### ●質疑応答

#### 【参加者A】

市長に、地区会館の運営のことでお願いがあります。新型コロナウイルスの影響を受け、利用者と利用料金が、去年と比べ4月から7月までの4か月の間に8割減少しております。このような状況の中、6月に釧路市の指定管理費が追加支給されたところであります。どうもありがとうございました。しかしながら、来年3月までの収支について考えますと、大変なことになると思い、先週の金曜日、地区連合町内会と地区社会福祉協議会の役員会・理事会を開きました。地区会館の運営については、9月に再度話し合うことになったのですが、この4か月間の利用料金は戻せないと思っております。再度であります。市からの支援をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

#### 【市長】

実際に、新型コロナウイルスの影響がどれだけ続くのかということになりますと、なかなか先が見通せない状況です。色々な意見がある中で、2年、3年掛かるという話もあります。私どもは現場でありますので、今、何をしたらいいという訳ではなく、一体となり進めていく形であると考えておりますので、現状の状況を踏まえた上で、対応していきたいと思っております。まだ暫く時間が掛かる中で、私たちもしっかりとした感染防止対策を行いながら、公衆衛生専門の市の政策アドバイザーにも、このようなことを確認していき、進めていきたいと考えております。今後も、「動くな」「止めるな」「何もするな」ということであれば、成り立たないと思っております。しっかりとした感染防止対策、リスク対策を行った上で、このようにやっていきたいと思いますという流れを作っていきたいと思っております。大きな流れとしては、収束が全然見えないという状況でありますので、しっかり相談しながら進めていきます。そのために、必要なことはしっかり対応していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### 【参加者B】

鉄道高架について、6月の釧路新聞に、鉄道高架着手最短8年後、設計に7年掛かると記載されておりましたが、これはどのような検討をしているのでしょうか。こちらの内容について、説明していただきたいと思っております。

## 【市長】

計画10年着工10年という色々な物事の進め方があり、これは行政のスピードや色々な事業のスピードなどを表しております。色々なことを計画し、まとめていくことには、大体10年くらい掛かります。また、それにあわせて、着手し、完成するまで10年くらい掛かります。鉄道高架については、東日本大震災のあと、今後、地域に住む住民の命、また、通行している方々のことを考え、鉄道高架が必要であるということをお話しながら進めてきたところです。そのような中、市議会においても、特別委員会が設置されました。今、その中で、どのような形のプランを進めていくかということであり、昨年「基本構想」をまとめました。そして今度は「事業構想」を今年度中にまとめていこうというところでもあります。この中で、経済圏、商工会議所をはじめ、様々な方々とも意見交換を行い、進めているところでもあります。地域における様々な説明については、今、どのようなまちづくりを行っていくかということ、各団体の方々とお話をしていき、その「事業構想」を構築していく中で、地域の中での意見交換や説明等を行っていきます。今は、まさしく、街の顔づくりの過程をどのような形にするのか相談しながら進めているところです。事業構想8年というものは、そのような色々なことを取り組んでいく手順がある中で、それだけの時間軸が掛かるのではないかというものであります。確定している訳ではないのですが、一般的な時間軸がそのようになっておりますということを議会でお話したことが、新聞に掲載されたという状況であります。

## 【参加者B】

釧路駅の地下道を歩くことが大変で困っております。傾斜45度の階段があり、リフトはありますが、利用する人は学生しかおりません。災害や津波となりますと、防災面からも地下道は水没してしまうと思います。旭陸橋についても、雪解けのときには、林田クリニックやラスティングホテル前の交差点が水浸しになり、通行止めになります。これらの点について、少し考えてほしいと思います。高架ということではなくて、要するに防災面です。高台に逃げなさいと言われても高台が無く、駅裏に住む私どもにとって、非常に問題になっております。高架も大事であります、防災のことを先に考えてほしいと思います。

## 【市長】

まちづくりと防災という観点の中でも、先程、お伝えしたような手順があり、これは国の方にあげていきながら進めていくものでありますので、どうしてもそのような一定の時間軸というものがあります。ただ、防災のことに関しては、しっかりとした対応を行わなければいけないということは、一貫してお話をさせていただいております。その上でまず、居住している方々については、近くの民間ビルにも協力いただき、夜分でも入れる形をとるなどし、駅前から駅裏にかけての避難場所を確保しているところです。その中で、避難場所を確保できなかった大楽毛の南エリアと星が浦の一部は、避難困難地域となっているのですが、今後、国から波の高さや浸水の高さが示され次第、対策を取ってまいります。併せて、車に乗っている方について、今まで、幣舞橋や久寿里橋については、通行止めという形でありましたが、東日本大震災の後に、橋で通行止めとなっている人がいましたが、津波が来た際に通行止めとなる人はどうする

のかということ踏まえ、国の開発建設部とも相談し、これからは高台の橋南方面に逃げる際には、自己責任で橋を渡っていただくという対応策をとっているところでもあります。改めまして、市の防災危機管理課の方から、中心地と合わせ、若松町などの駅裏方面につきましても、民間ビルも含め、一定の避難場所が確保されているということを、連合町内会など皆様方にお伝えできるよう進めて参りたいと考えております。このような防災対策をしっかりと行い、また、国のシミュレーションにより示される数値を受け、それに向けたしっかりとした対応を正確に皆様にお伝えし、命を最優先にするという観点から対応を進めてまいりたいと考えております。